

日交研シリーズ A-590

平成 24 年度研究プロジェクト

「環境影響を考慮した費用便益分析の研究（基礎理論プロジェクト）」

刊行：2014 年 2 月

環境の評価と価格形成
Evaluating and Pricing Environment

主査：庭田 文近（城西大学現代政策学部）

NIWATA, Fumichika

要 旨

交通政策の変更・交通プロジェクトの実施にはさまざまな環境影響が伴い、したがってその合理的な評価には環境費用・環境便益の双方を考慮しなければならない。特に、財政制約・環境制約の厳しくなっている現在、外部性も考慮した合理的な政策・事業の評価は、効率的な交通行政の確保のために、また行政の国民への説明責任として、より重要になってくるであろうと考えられる。

こうした政策評価を行おうとする場合、環境への影響の経済評価は避けて通れない課題である。しかしながら、環境はそれ自体を直接の取引対象とした市場が無い「非市場財」であるため、その価格は直接に観察されない。このため、一般的に行われるのは、周辺環境の価値が不動産価格に反映されるというキャピタリゼーション仮説に基づき、不動産価格を用いて顕示的に環境を評価する方法である。本書の第 1 章では、その際の経済理論上ないしは計量分析上の諸課題とそれらへの対応を把握するとともに、ヘドニック法の理論および実証に関する先行研究のサーベイを行った。

また、近年の欧米においては、環境税制の改革の重要な問題点の 1 つとして、環境税の二重の配当についての議論がある。本書の第 2 章では、環境税の一種である混雑税について、その政策の費用と便益について検討するとともに、その費用に着目して二重の配当論が成立するかを検討した。

キーワード：環境評価 不動産価格 ヘドニック・プライシング 二重の配当 混雑税

Keywords: Environmental Evaluation, Real Estate Price, Hedonic Pricing, Double Dividend, Congestion Tax